

グループ 3: 利活用基盤整備グループ

九州ITS利活用研究会
QPITS / Practice group of ITS in Kyushu

進捗状況報告

2012年6月12日

リーダー : 下津 利裕 (九電ビジネスソリューションズ)
サブリーダー : 白石 富久 (アイ・ビジネスセンター)

1. 各グループの役割とメンバー

グループ 0: 企画・調整グループ

QPITS全体の事業化、規約・会則の策定などの企画・立案を推進するとともに、各グループ間の調整、協議会設立や国際会議に向けた準備などを担当する。

主管メンバーと、支援メンバーで構成する。

リーダー： 浦 正勝(西鉄情報システム)

グループ 1: センサグループ

域内に設置する新規のセンサなどを使った情報収集の推進を担当する。

リーダー： 松尾 真悟(マイクロコート)

グループ 2: コンテンツグループ

域内団体が所有する各種コンテンツの収集の推進・整理を担当する。

リーダー： 浦 正勝(西鉄情報システム)

本日の懇親会で参加企業様の確認(公開)及進め方について調整させていただきます。

グループ 3: 利活用基盤整備グループ(16社:24名)

本会合のコアとなる複数の企業・団体やデータセンタにまたがった利活用基盤の整備、技術の確立について担当する。

リーダー : 下津 利裕(九電ビジネスソリューションズ)

サブリーダー: 白石 富久(アイ・ビジネスセンター)

- (メンバー) : 浦 正勝(西鉄情報システム) : ○○ ○○(□□□□□□□)
- : 芦原 秀一(ネットワーク応用技術研究所) : ○○ ○○(□□□□□□□)
- : ○○ ○○(□□□□□□□) : ○○ ○○(□□□□□□□)
- : ○○ ○○(□□□□□□□) : ○○ ○○(□□□□□□□)
- : ○○ ○○(□□□□□□□) : ○○ ○○(□□□□□□□)
- : ○○ ○○(□□□□□□□) : ○○ ○○(□□□□□□□)
- : ○○ ○○(□□□□□□□) : ○○ ○○(□□□□□□□)
- : ○○ ○○(□□□□□□□) : ○○ ○○(□□□□□□□)

グループ 4: 利活用基盤整備グループ

整備される利活用基盤の友好的なサービス事例を実証として推進する。

リーダー： 波多江 穰治(システムワークス)

2. 今後の進め方

『九州ITS利活用情報基盤』の構築・整備を目的に、入力側(グループ1・2)からの『情報ソースとつなぐ「ゲートウェイ」の共通インターフェース仕様』、出力側(グループ4)へ提供する『インターネット／モバイル網とつなぐ「ゲートウェイ」の共通データ仕様』を、最終的に利用する「すべての人にやさしく」提供できる仕組みを最新の技術を活用し構築する。

(1) グループ3の会議(ミーティング)について

- 月2回 実施(案)
 - ・第2火曜日(QUEST会合の前) 15:00～16:00
 - ・第4火曜日 16:30～17:30
- 場所
 - ・第2火曜日: QUEST会場
 - ・第4火曜日: 都度案内(西鉄情報システム or 九電ビジネスソリューションズ 会議室)

(2) 具体的な進め方

- 現在、九電グループで所有しているシステム(設備)を利活用し「実証実験」を行う。(別紙:次ページ参照)
⇒ 2011. 3 九州運輸局様からの公募案件時に使用した設備を利活用

件名: **「外国人観光客の移動容易化のための言語バリアフリー化調査の請負業務」**

福岡市内の主要拠点において、①外国人がバスやタクシーなどの公共交通機関を利用して安心・安全に移動でき(「言語バリアフリー化」)、また②着地において各拠点の観光スポットやイベントなどの情報も合わせて発信し、市内の滞在・回遊を促進する環境を整備し実証実験を行った。

※ 現行のサーバやデジタルサイネージ及びネットワーク含めたコンテンツに「九州ITS利活用研究会」で更なる付加価値を加え「人を中心とした新しいITSによるスマート社会」「地域に密着した情報(コンテンツ)の相互利活用」を実現する。

⇒ スモールスタート(できる企業や団体から取組む)

九州ITS利活用研究会 H24秋～福岡市 実証実験 構築イメージ図(案) 2012.6.12

【人の動き(動線:スマホ/ICカードを利用)に関する情報収集】



Touch Station Fukuoka システム構成図

